

平成 28 年度魚住沖浅場でのアマモ場再生事業

日時 平成 28 年 12 月 18 日(日) 9:30~16:00

場所 アマモ株の採取 江井ヶ島海水浴場前の自生アマモ場

移植準備作業 江井ヶ島海水浴場階段護岸 → 江井ヶ島漁協前岸壁

アマモ株の移植 魚住沖浅場

今日は 11 月に強風、雨天で中止・順延していた魚住沖浅場でのアマモ株移植(11/23)および地曳網(11/27)を並行して行うことにしました。

天候は晴れで、太陽の日差しで暖かく、穏やかな一日で、野外でのイベントでは最高です。

8 時半に現地に到着し、軽トラックから荷物を降ろして準備です。

9 時過ぎにはスタッフ、ダイバーの方々も来られ、打合せの後、早速アマモ株の採取です。造成面積 25 m²(5m×5m)として約 400 株を採取しました。



打合せ



アマモが密生している西側スパンでアマモ株採取

これで、アマモ株を半折れの金網に 3~5 株を挟み込み、ホックリング・ガンで止めます。

この作業を外部電源がない階段護岸上で行うため、小型発電機とベビコンを借りてきたのですが、発電機が定常運転まで待たず、性急にベビコンを作動させたのが悪かったのか、ベビコンを繋ぐのですが、ベビコンが作動せず、通電表示の緑ランプが消えます。レンタル先は日曜定休日で、連絡はつかず、どう対応するかが分かりません。困った！！

そこで、発電機は諦め、外部電源が使える江井ヶ島漁協前の岸壁に移動し、アマモ移植株の準備作業行うことに！ベビコンの故障ではなく、正常に作動します。助かった！

アマモ株を金網に挟み込む作業が少し遅れましたが、12 時過ぎに江井ヶ島港を出港し、魚住沖浅場に。

平成 26 年度にアマモ株を移植した地点で平底船を止め、まずダイバーチームのリーダーである大阪 ECO 動物海洋専門学校の小野寺先生に位置確認とこの 8 月 8 日の調査で現存しているアマモの確認をお願いしました。潜水して 20 分以上経過しても浮上してこられず、停泊位置が違ったかと思いましたが、

ここで間違いはなかったようです。しかし、ここでも問題発生です！

“位置はぴったりで、5m×5m の縄張りをしていたトラロープが付いたロープ止め丸鋼 1 本はすぐに見つかったが、他の 3 本は周囲を探したが見つからない。そして、”アマモは全く見られない”とのこと。また、浅場表面には 3cm ほど浮泥が堆積し、その下 2cm ほどが浮泥と砂が混じったもので、その下は砂だけが真っ黒です”とのこと。

さー、どうする。困りましたが、長時間考え込む余裕はありません！

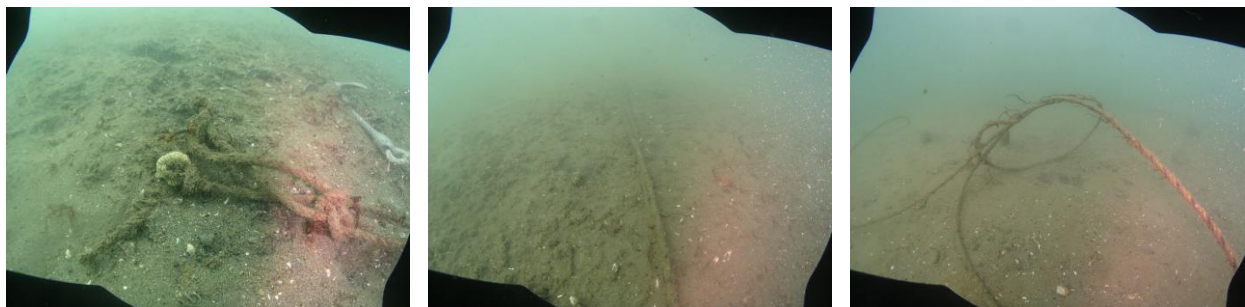
“今あるロープ止め丸鋼を基点に、新たに 5m×5m の縄張りを作り、その範囲にアマモ株を移植する”と決めて、ダイバーの皆さんにお願いしました。

潮は中潮で、午後 2 時が満潮で、作業開始時は表層で少し流れを感じるが、浅場上では流れはないとのことで、移植作業は無事に終了し、移植後のアマモの状態を写真撮影して、ダイバー全員船上に。

予定ではこの後、昨年(平成 28 年度)移植した位置に転船し、アマモの状態を観察することになっていましたが、時間は 2 時半で、これから転船、位置確認を行い、観察するには時間的余裕がないため、ここで、本日は作業を終了し、帰港することに。

何故？生残していたアマモが無くなったのか？縄張りのロープがどうして切られたのか？など、よく分かりませんが、今日移植したアマモが多く生き残ってくれることを願っています。

さて、平成 26 年度の縄張りの写真を以下に示します。

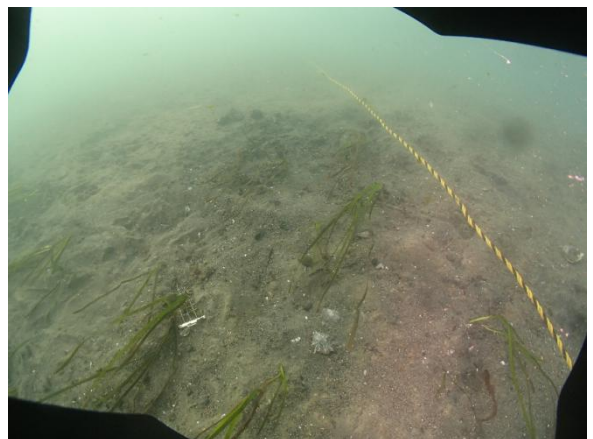
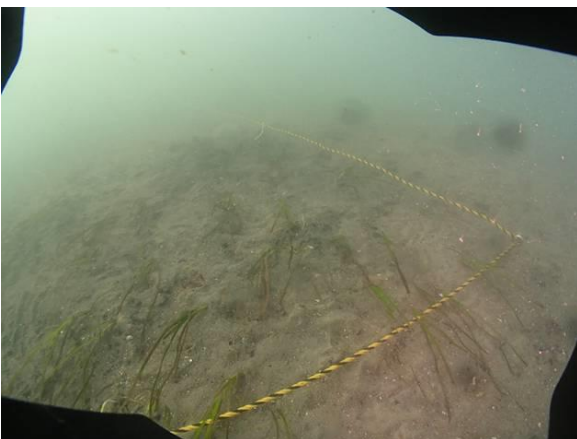
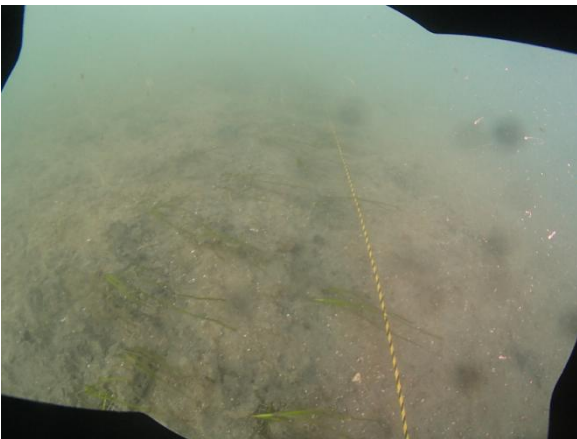
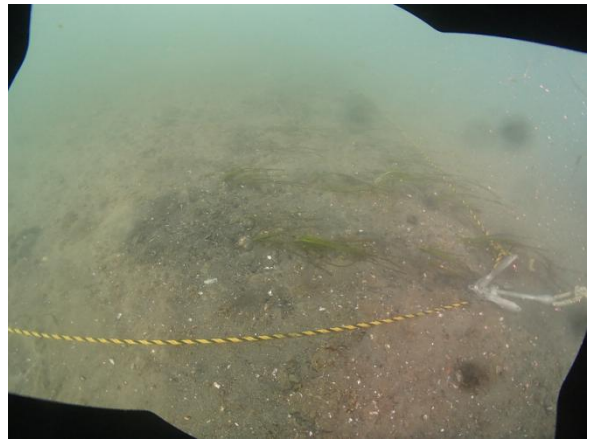
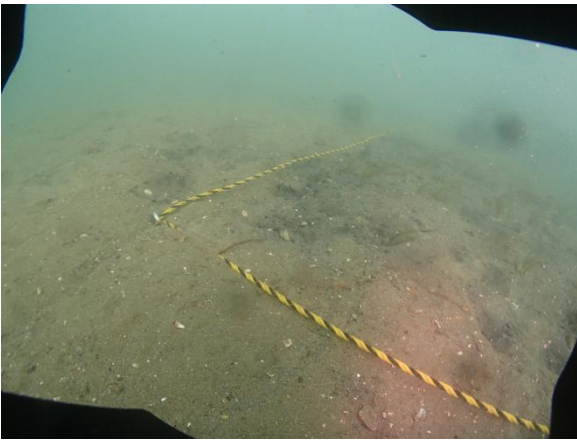
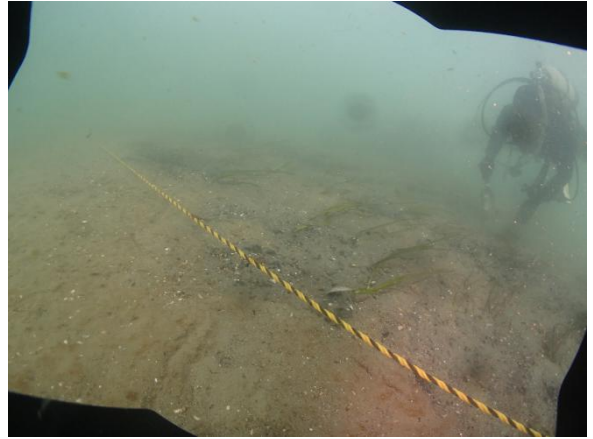
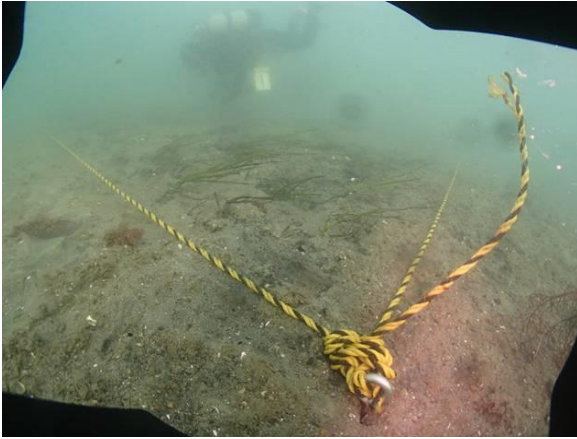


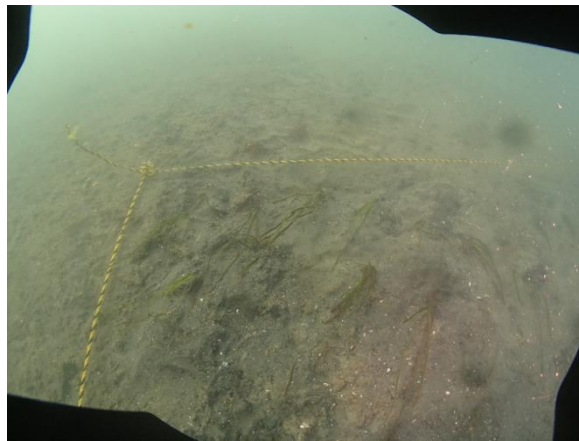
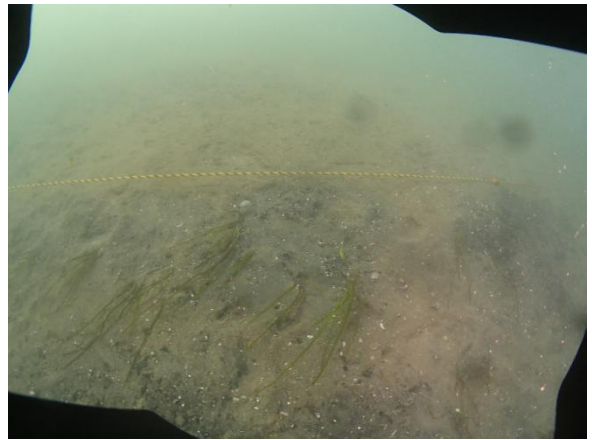
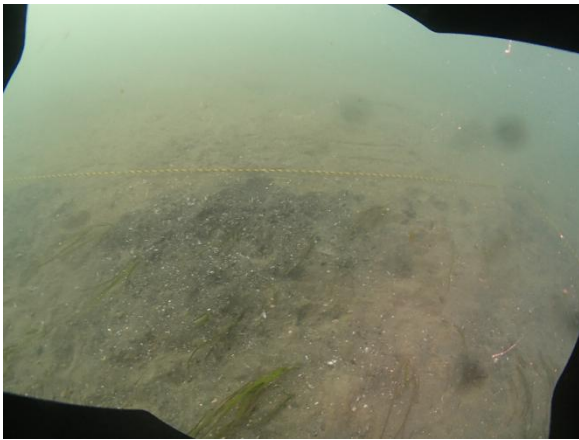
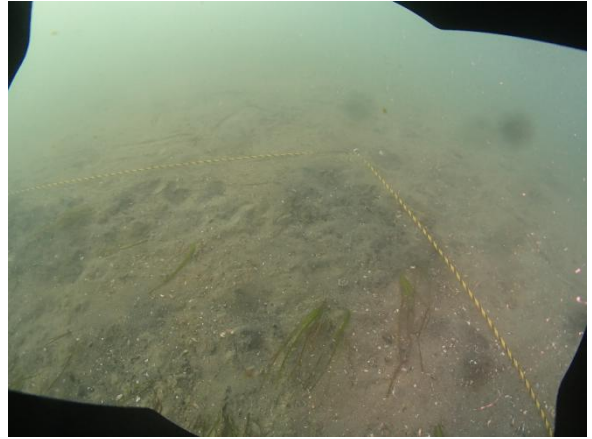
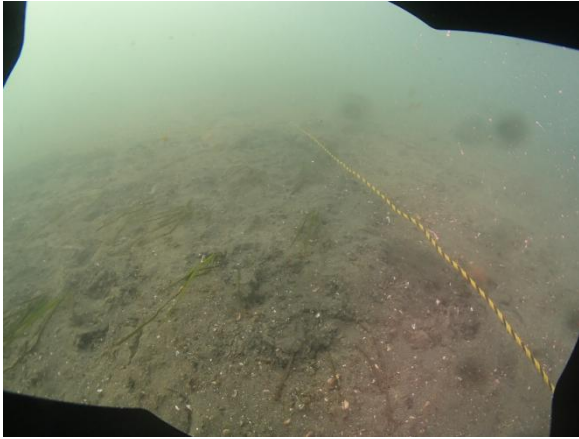
平成 26 年度設置の縄張りで残ったロープ止め丸鋼とトラロープ

また、移植作業の様子と移植したアマモ株の写真を以下に示します。



アマモ株の移植





移植したアマモ株をグルーと一周！

最終更新日：平成29年1月20日